

# していしょうがいじそうだんしえんじぎょう うんえいきてい 指定障害児相談支援事業 運営規定

## じぎょう もくてき (事業の目的)

### だい じょう 第1条

いりょうほうじんどうじんかいにぐちびょういん せっち ちいきかつどうしえん なご (以下「事業所」という。)において実施する指定障害児相談支援事業(基本相談、指定障害児相談支援を含む。以下「事業」という。)に関し、人員および運営に関する事項を定め、障害児通所支援を利用する要支援児(以下「利用者」という。)またはその保護者に対し、事業の適正な運営と適切な指定障害児相談支援の提供を図ることを目的とする。

## うんえい ほうしん (運営の方針)

### だい じょう 第2条

- 1 この事業所が実施する事業は、利用者または利用者の保護者(以下「利用者等」という。)の意思および人格を尊重し、常に当該利用者等の立場に立って行うものとする。
- 2 事業の実施にあつては、利用者が自立した日常生活または社会生活を営むことができるように配慮して行う。
- 3 事業の実施にあつては、利用者の心身の状況、その置かれている環境等に応じて、利用者等の選択に基づき、適切な保健、医療、福祉、就労支援、教育等のサービス(以下「福祉サービス等」という。)が、多様な事業者から総合的かつ効率的に提供されるよう配慮して行う。
- 4 事業の実施にあつては、利用者等に提供される福祉サービス等が、特定の

しゅるい とくてい しょうがいじつうしよしえんじぎょう おこな もの ふとう かたよ  
種類または特定の障害児通所支援事業を行 う者に不当に 偏 ることのない  
よう、公正中立に行 う。

- 5 事業の実施にあつては、日南市、障害児通所支援事業を行 う者等との連携  
を図り、地域において必要な社会資源の改善および開発に努める。
- 6 事業の実施にあつては、自 らその提供 する指定障害児相談支援の評価を  
行い、常にその改善を図る。
- 7 事業の実施にあつては、前6項の他、関係法令等を遵守する。

### (事業所の名称等)

#### 第3条

事業所の名称 および所在地は、次のとおりとする。

- 1 名称 医療法人同仁会谷口病院 地域活動支援センター「和み」
- 2 所在地 宮崎県日南市大字風田3861番地

### (従業者の職種、員数および職務の内容)

#### 第4条

事業所に勤務する従業者の職種、員数および職務の内容は、次のとおりとする。

- 1 管理者 1名 (常勤兼務)  
管理者は、従業者および業務の管理を一元的に行うとともに、従  
業者に対し関係法令等を遵守させるために必要な指揮命令を行 う。
- 2 相談支援専門員 1名 (常勤専従)  
相談支援専門員は、生活全般に関する相談 (基本相談支援 (障害者総合

支援法に規定する基本相談支援をいう。以下同じ)) に関する業務、および障害児支援利用計画の作成に関する業務を行うものとする。

3 その他の者 なし

その他の者は、相談支援専門員の補助並びに事業所運営に必要な事務等を行う。

(営業日および営業時間)

第5条

事業所の営業日および営業時間は、次のとおりとする。

1 営業日

月曜日～金曜日

2 営業時間

午前8時20分から午後5時までとする。

3 サービス提供日および提供時間

月曜日～金曜日とし、サービス提供時間は午前8時20分から午後5時までとする。

4 その他の連絡先

その他の連絡体制については、営業時間外となる午後5時から翌朝8時20分までの間は、医療法人同仁会谷口病院の代表電話を受付電話番号とする。

医療法人同仁会 谷口病院 (代表) 0987-23-1331

繋がらない場合は、0987-27-3112

(<sup>していしょうがいじそうだんしえん</sup>指定障害児相談支援<sup>ていきょうほうほう</sup>の提<sup>ないよう</sup>供方法および内容)

<sup>だい</sup>第<sup>じょう</sup>6条

1 この事業所が提<sup>じぎょうしょ</sup>供<sup>ていきょう</sup>する指定障害児相談支援<sup>していしょうがいじそうだんしえん</sup>の内容は、次<sup>ないよう</sup>のとおりとする。

(1) 指定障害児相談支援事業所<sup>していしょうがいじそうだんしえんじぎょうしょ</sup>の管理<sup>かんり</sup>者<sup>しゃ</sup>は、相談支援専門員<sup>そうだんしえんせんもんいん</sup>に基本相談支援<sup>きほんそうだんしえん</sup>に関する業<sup>かん</sup>務<sup>ぎょうむ</sup>および障<sup>しょう</sup>害<sup>がい</sup>児支援利用計画<sup>しえんりようけいかく</sup>の作成等<sup>さくせいとう</sup>に関する業<sup>かん</sup>務<sup>ぎょうむ</sup>を担<sup>たん</sup>当<sup>とう</sup>させるものとする。

(2) 指定障害児相談支援<sup>していしょうがいじそうだんしえん</sup>の提<sup>ていきょう</sup>供<sup>あ</sup>に当たっては、利用者等<sup>りようしゃとう</sup>の立場<sup>たちば</sup>に立<sup>た</sup>って懇<sup>こん</sup>切<sup>せつ</sup>丁寧<sup>ていねい</sup>に行<sup>おこな</sup>うことを旨<sup>むね</sup>とし、利用者またはその家族<sup>りようしゃ</sup>に対し、サービス<sup>かぞく</sup>の提<sup>ていきょうほうほうとう</sup>供<sup>せつめい</sup>方法等<sup>おこな</sup>についてわかりやすく説明<sup>せつめい</sup>を行<sup>おこな</sup>うとともに、必要<sup>ひつよう</sup>に応<sup>おう</sup>じて、同<sup>おな</sup>じ障<sup>しょう</sup>害<sup>がい</sup>を有<sup>ゆう</sup>する者<sup>もの</sup>による支援<sup>しえん</sup>を提<sup>ていきょう</sup>供<sup>あ</sup>するなど、適<sup>てき</sup>切<sup>せつ</sup>な手<sup>しゅ</sup>法<sup>ほう</sup>を通<sup>つう</sup>じて行<sup>おこな</sup>うものとする。

2 指定障害児相談支援<sup>していしょうがいじそうだんしえん</sup>における指定障害児支援利用援助<sup>していしょうがいしえんりようえんじょ</sup>の方針<sup>ほうしん</sup>は、第2条<sup>だいじょう</sup>に規定<sup>きてい</sup>する基本方針<sup>きほんほうしん</sup>および前項<sup>ぜんこう</sup>に規定<sup>きてい</sup>する方針<sup>ほうしん</sup>に基づ<sup>もと</sup>き、次<sup>つぎ</sup>の各号<sup>かくごう</sup>に掲<sup>かか</sup>げるところによるものとする。

(1) 相談支援専門員<sup>そうだんしえんせんもんいん</sup>は、障<sup>しょう</sup>害<sup>がい</sup>児支援利用計画<sup>しえんりようけいかく</sup>の作成<sup>さくせい</sup>に当たっては、利用者等<sup>りようしゃとう</sup>の希<sup>き</sup>望<sup>ぼう</sup>等<sup>とう</sup>を踏<sup>ふ</sup>まえて作成<sup>さくせい</sup>するよう<sup>つと</sup>に努<sup>つと</sup>める。

(2) 相談支援専門員<sup>そうだんしえんせんもんいん</sup>は、障<sup>しょう</sup>害<sup>がい</sup>児支援利用計画<sup>しえんりようけいかく</sup>の作成<sup>さくせい</sup>に当たっては、利用者<sup>りようしゃ</sup>の自<sup>じ</sup>立<sup>りつ</sup>した日<sup>にち</sup>常<sup>じょう</sup>生活<sup>せいかつ</sup>の支<sup>し</sup>援<sup>えん</sup>を効<sup>こう</sup>果<sup>か</sup>的<sup>てき</sup>に行<sup>おこな</sup>うため、利用者<sup>りようしゃ</sup>の心<sup>しん</sup>身<sup>しん</sup>また<sup>は</sup>は家<sup>か</sup>族<sup>ぞく</sup>の状<sup>じょう</sup>況<sup>きやう</sup>等<sup>とう</sup>に応<sup>おう</sup>じ、継<sup>けい</sup>続<sup>ぞく</sup>的<sup>てき</sup>かつ計<sup>けい</sup>画<sup>かく</sup>的<sup>てき</sup>に適<sup>てき</sup>切<sup>せつ</sup>な福<sup>ふ</sup>祉<sup>し</sup>サ<sup>さ</sup>ー<sup>し</sup>ブ<sup>ぶ</sup>ス等<sup>とう</sup>の利<sup>り</sup>用<sup>よう</sup>が<sup>おこな</sup>行<sup>つと</sup>わ<sup>つと</sup>れるよう努<sup>つと</sup>める。

(3) 相談支援専門員<sup>そうだんしえんせんもんいん</sup>は、障<sup>しょう</sup>害<sup>がい</sup>児支援利用計画<sup>しえんりようけいかく</sup>の作成<sup>さくせい</sup>に当たっては、利用者<sup>りようしゃ</sup>の日<sup>にち</sup>常<sup>じょう</sup>生活<sup>せいかつ</sup>全<sup>ぜん</sup>般<sup>ぱん</sup>を支<sup>し</sup>援<sup>えん</sup>する観<sup>かん</sup>点<sup>てん</sup>から、指<sup>して</sup>定<sup>いつ</sup>通<sup>う</sup>所<sup>しよ</sup>支<sup>し</sup>援<sup>えん</sup>に<sup>くわ</sup>加<sup>して</sup>えて、指<sup>して</sup>定<sup>いつ</sup>通<sup>う</sup>所<sup>しよ</sup>支<sup>し</sup>援<sup>えん</sup>以<sup>い</sup>外<sup>がい</sup>の福<sup>ふ</sup>祉<sup>し</sup>サ<sup>さ</sup>ー<sup>し</sup>ブ<sup>ぶ</sup>ス等<sup>とう</sup>、当<sup>とう</sup>該<sup>がい</sup>地<sup>ち</sup>域<sup>いき</sup>の住<sup>じゅう</sup>民<sup>みん</sup>による自<sup>じ</sup>発<sup>はつ</sup>的<sup>てき</sup>な活<sup>かつ</sup>動<sup>どう</sup>によ

るサービス等の利用も含めて 障害児支援利用計画 上に位置付けるよう努める。

- (4) 相談支援専門員は、障害児支援利用計画の作成の開始に当たっては、利用者等によるサービスの選択に資するよう、当該地域における指定障害児通所支援事業者等に関するサービスの内容、利用料等の情報を適正に利用者またはその家族に対して提供するものとする。
- (5) 相談支援専門員は、障害児支援利用計画の作成に当たっては、適切な方法により、利用者について、その心身の状況、置かれている環境および日常生活全般の状況等の評価を通じて、利用者の希望する生活や利用者が自立した日常生活を営むことができるよう支援する上での解決すべき課題等の把握（以下「アセスメント」という。）を行うものとする。
- (6) 相談支援専門員は、アセスメントに当たっては、利用者の居宅等を訪問し、利用者およびその家族に面接する。この場合において、相談支援専門員は、面接の趣旨を利用者およびその家族に対して十分に説明し、理解を得る。
- (7) 相談支援専門員は、利用者についてのアセスメントに基づき、当該地域における指定通所支援が提供される体制を勘案して、当該アセスメントにより把握された解決すべき課題等に対応するための最も適切な福祉サービス等の組合せについて検討し、利用者およびその家族の生活に対する意向、総合的な援助の方針、生活全般の解決すべき課題、提供される福祉サービス等の目標およびその達成時期、福祉サービス等の種類、内容、量、福祉サービス等を提供する上での留意事項、厚生労働省令で定める期間に係る提案等を記載した障害児支援利用計画案を作成する。

(8) 相談支援専門員は、障害児支援利用計画案に位置付けた福祉サービス等について、障害児通所給付費等の対象となるかどうかを区分した上で、当該障害児支援利用計画案の内容について、利用者およびその家族に対して説明し、文書により利用者等の同意を得る。

(9) 相談支援専門員は、障害児支援利用計画案を作成した際には、当該障害児支援利用計画案を利用者等に交付する。

(10) 相談支援専門員は、通所給付決定を踏まえて障害児支援利用計画案の変更を行い、指定障害児通所支援事業者等その他の者との連絡調整等を行うとともに、サービス担当者会議の開催等により、当該障害児支援利用計画案の内容について説明を行う。その際、サービス担当者会議に出席する担当者から、専門的な見地に拠る意見を求める。

(11) 相談支援専門員は、サービス担当者会議を踏まえた障害児支援利用計画案の内容について、利用者およびその家族に対して説明し、文書により利用者等の同意を得る。

(12) 相談支援専門員は、障害児支援利用計画を作成した際には、当該障害児支援利用計画を利用者等および第10号のサービス担当者会議に出席した担当者に交付する。

3 指定障害児相談支援における指定継続障害児利用支援の方針は、第2条に規定する基本方針および前2項に規定する方針に基づき、次の各号に掲げるところによるものとする。

(1) 相談支援専門員は、障害児支援利用計画の作成後、障害児支援利用計画の実施状況の把握(利用者についての継続的な評価を含む。以下「モ

ニタリング」という。)) を行い、必要に応じて障害児支援利用計画の変更、福祉サービス等の事業を行う者等との連絡調整その他の便宜の提供を行うとともに、新たな通所給付決定が必要であると認められる場合には、利用者等に対し、通所給付決定に係る申請の勧奨を行う。

(2) 相談支援専門員は、モニタリングに当たっては、利用者およびその家族、福祉サービス等の事業を行う者等との連絡を継続的に行うこととし、厚生労働省令で定める期間ごとに利用者の居宅等を訪問し、利用者等に面接するほか、その結果を記録する。

(3) 前項第1号から第7号および第10号から第12号までの規定は、障害児支援利用計画の変更について準用する。

(4) 相談支援専門員は、適切な福祉サービス等が総合的かつ効率的に提供された場合においても、利用者がその居宅において日常生活を営むことが困難となったと認める場合または利用者等が指定障害児入所施設等への入所または入院を希望する場合には、指定障害児入所施設等への紹介その他の便宜の提供を行う。

(5) 相談支援専門員は、指定障害児入所施設等から退所または退院しようとする利用者またはその家族等から依頼があった場合には、居宅における生活へ円滑に移行できるよう、あらかじめ、必要な情報の提供および助言を行う。

## (支給決定障害者等から受領する費用の額等)

### 第7条

1 事業所は、法定代理受領を行わない指定障害児相談支援を提供した際は、障害児相談支援対象保護者から、厚生労働大臣が定める基準に

より算定した費用の額の支払いを受けるものとする。

- 2 事業所は、前項の支払いを受ける額のほか、障害児相談支援対象保護者の選定により通常の事業の実施地域以外の地域の居宅等を訪問して指定障害児相談支援を提供する場合は、それに要した交通費の実費の支払いを、障害児相談支援対象保護者から徴収することができる。なお、事業所の自動車を使用した場合の交通費は、次の額を徴収することができる。

ア. 公共交通機関を利用した場合、それが定める運賃等

イ. 事業者の自動車を利用した場合：

通常の事業実施地域（日南市）から実施地域外へ移動した距離（km）×20円

- 3 事業所は、前2項の費用の支払いを受けた場合は、当該費用に係る領収証を、当該費用を支払った障害児相談支援対象保護者に対し交付しなければならない。
- 4 事業所は、第2項の費用の額に係るサービスの提供に当たっては、あらかじめ、障害児相談支援対象保護者に対し、当該サービスの内容および費用について説明を行い、障害児相談支援対象保護者の同意を得なければならない。

#### （通常の事業の実施地域）

#### 第8条

通常の事業の実施地域は、日南市とする。



## (事業の主たる対象者とする障害の種類)

### 第9条

事業所において指定障害児相談支援を提供する主たる対象者は、次のとおりとする。

- 1 児童福祉法第4条第2項に規定する18歳未満の児童（発達障害者支援法（平成16年法律第167号）第2条2項に規定する発達障害児を含む）をいう。

## (虐待の防止のための措置に関する事項)

### 第10条

利用者の人権の擁護、虐待の防止等のため、責任者を設置する等必要な体制の整備を行うとともに、その従業者に対し、研修を実施する等の措置を講ずる。

## (苦情解決)

### 第11条

- 1 提供した指定障害児相談支援または障害児支援利用計画に位置付けた福祉サービス等に関する利用者またはその家族からの苦情に迅速かつ適切に対応するために、苦情を受付けるための窓口を設置する。
- 2 前項の苦情を受けた場合には、当該苦情の内容等を記録する。
- 3 事業所は、提供した指定障害児相談支援に関し、法の定めるところにより、日南市が行う報告、若しくは指定障害児相談支援の提供の記録、帳簿書類その他の物件の提出、若しくは提示の命令または当該職員からの質問、若しくは事業所の設備、帳簿書類その他の物件の検査に

応じ、および利用者またはその家族からの苦情に関して、日南市が行う調査に協力するとともに、日南市から指導または助言を受けた場合は、当該指導または助言に従って必要な改善を行う。

- 4 事業所は、社会福祉法第83条に規定する運営適正化委員会が同法第85条の規定により行う調査またはあっせんのできる限り協力する。

### (事故発生時の対応)

#### 第12条

利用者等に対する指定障害児相談支援の提供により事故が発生した場合は、日南市および当該利用者の家族等に連絡を行うとともに、必要な措置を講ずるものとする。

### (研修)

#### 第13条

従業者の資質の向上を図るために研修の機会を設けるとともに、適切かつ効率的に事業が実施できるよう従業者の勤務の体制を整備する。

- 1 採用時研修 採用後1ヶ月以内
- 2 継続研修 年1回

### (秘密保持)

#### 第14条

- 1 従業者は、正当な理由なく、その業務上知り得た利用者またはその家族の秘密を第三者に漏らしてはならない。
- 2 従業者であった者が、正当な理由なく、業務上知り得た利用者または

その家族の秘密を漏らすことがないよう、従業員でなくなった後においても、これらの秘密を保持するよう必要な措置を講じなければならない。

- 3 サービス担当者会議等において、利用者またはその家族の個人情報を用いる場合は、あらかじめ文書により当該利用者またはその家族の同意を得るものとする。

### (サービス提供の記録)

#### 第15条

- 1 事業所は、従業員、設備・備品および会計に関する諸記録を整備するとともに、当該指定計画相談支援を提供した日から5年間保存する。
- 2 事業所は、利用者等に対する指定障害児相談支援の提供に関する次に掲げる記録を整理し、当該指定障害児相談支援を提供した日から5年間保存する。
  - (1) 福祉サービス等の事業を行う者等との連絡調整に関する記録
  - (2) 個々の利用者ごとに次に掲げる事項を記載した相談支援台帳
    - イ. 障害児支援利用計画案および障害児支援利用計画
    - ロ. アセスメントの記録
    - ハ. サービス担当者会議等の記録
    - ニ. モニタリングの結果の記録
  - (3) 日南市への通知に係る記録
  - (4) 苦情の内容等の記録
  - (5) 事故の状況および事故に際して採った処置についての記録

えいせい かんりとう  
(衛生管理等)

だい じょう  
第 16 条

- 1 事業所は、従業員の清潔の保持及び健康状態について、必要な管理を行う。
- 2 事業所は、当事業所の設備及び備品等について、衛生的に管理する。
- 3 事業所は、感染症が発生し、又はまん延しないように、次の各号に掲げる措置を講ずる。
  - (1) 事業所における感染症の予防及びまん延の防止のための対策を検討する委員会（テレビ電話装置等を活用して行うことができるものとする。）を定期的に開催するとともに、その結果について従業員に周知徹底を図る。
  - (2) 事業所における感染症の予防及びまん延の防止のための指針を整備する。
  - (3) 事業所において、従業員に対し、感染症の予防及びまん延の防止のための研修及び訓練を定期的に実施する。

しよくば ぼうし  
(職場におけるハラスメントの防止)

だい じょう  
第 17 条

事業所は、適切なサービスの提供を確保する観点から、職場において行われる性的な言動又は優越的な関係を背景とした言動であって業務上必要かつ相当な範囲を超えたものにより従業員の就業環境が害されることを防止するための方針の明確化等の必要な措置を講ずる。

ぎょうむけいぞくけいかく さくていとう  
(業務継続計画の策定等)

だい じょう  
第18条

- 1 事業所は、感染症や非常災害の発生時において、利用者に対するサービスの提供を継続的に実施するための、及び非常時の体制で早期の業務再開を図るための計画（以下「業務継続計画」という。）を策定し当該業務継続計画 に従い必要な措置を講ずる。
- 2 事業所は、従業者に対し、業務継続計画について周知するとともに必要な研修及び訓練を定期的の実施する。
- 3 事業所は、定期的に業務継続計画の見直しを行い、必要に応じて業務継続計画を変更する。

けいじ  
(揭示)

だい じょう  
第19条

- 1 事業所は見やすい場所に、運営規程の概要、基本相談支援、計画相談支援の実施状況、相談支援専門員の有する資格、経験年数及び勤務の体制その他、利用申込者のサービスの選択に資すると認められる重要事項を揭示する。
- 2 事業所は、前項に規定する事項を記載した書面を備え付け、かついつでも関係者が自由に閲覧できるようにすることにより、同項の規定による揭示に代えることができる。
- 3 事業所は、前項に規定する重要事項を公表する。

(<sup>ちいきせいかつしえんきよてんとう</sup>地域生活支援拠点等<sup>きのう</sup>の機能<sup>にな</sup>を担<sup>じぎょうしょ</sup>う事業所)

だい じょう  
第20条

事業所は「<sup>じぎょうしょ</sup>障害福祉サービス等<sup>しょうがいふくし</sup>及び<sup>とうおよびしょうがいじつうしょしえんとう</sup>障害児通所支援等<sup>えんかつ</sup>の円滑な実施<sup>じつし</sup>を確保<sup>かくほ</sup>するための<sup>きほんてき</sup>基本的な指針<sup>ししん</sup>（平成18年厚生労働省告示第395号）<sup>へいせい</sup>第一<sup>ねんこうせいろうどうしょうこくじだい</sup>の二<sup>ごう</sup>の三<sup>だいいち</sup>」<sup>に</sup>に規定<sup>きてい</sup>する<sup>ちいきせいかつしえんきよてんとう</sup>地域生活支援拠点等<sup>つぎ</sup>として<sup>きのう</sup>次の機能<sup>にな</sup>を担<sup>じぎょうしょ</sup>う。

(1) <sup>そうだん</sup>相談

<sup>じょうじ</sup>常時の連絡体制<sup>れんらくたいせい</sup>を確保<sup>かくほ</sup>し、<sup>しょう</sup>障<sup>とくせい</sup>がい<sup>きいん</sup>の特性<sup>しょうじたきんきゅう</sup>に起因<sup>し</sup>して生じた緊急<sup>きんきゅう</sup>の  
事態<sup>じたい</sup>等に必要<sup>ひつよう</sup>なサービス<sup>さーびす</sup>の<sup>こーでい</sup>コーディネート<sup>ねーと</sup>や<sup>そうだん</sup>相談<sup>そ</sup>、<sup>の</sup>その他<sup>た</sup>必要<sup>ひつよう</sup>な支援<sup>しえん</sup>  
を行う機能<sup>おこなきのう</sup>。

(2) <sup>きんきゅうじ</sup>緊急時の受け入れ<sup>う</sup>・<sup>たいおう</sup>対応

<sup>たんきにゅうしょうとう</sup>短期入所等<sup>かつよう</sup>を活用<sup>じょうじ</sup>した常時の緊急<sup>きんきゅう</sup>受け入れ態勢<sup>い</sup>等<sup>たいせいとう</sup>を確保<sup>かくほ</sup>した上で  
<sup>かいごしゃ</sup>介護者の急病<sup>きゅうびょう</sup>や<sup>しょうがいしゃ</sup>障害者の状態<sup>じょうたい</sup>の変化<sup>へんか</sup>等<sup>どう</sup>が発生<sup>はっせい</sup>した際の緊急<sup>さい</sup>時の受け  
入れ<sup>きんきゅうじ</sup>や<sup>い</sup>医療機関<sup>いりょうきかん</sup>への連絡<sup>れんらく</sup>等<sup>とう</sup>必要<sup>ひつよう</sup>な対応<sup>たいおう</sup>を行う機能<sup>おこなきのう</sup>。

(3) <sup>たいけん</sup>体験の機会<sup>きかい</sup>・<sup>ば</sup>場

<sup>びょういんまた</sup>病院又は施設<sup>しせつ</sup>からの<sup>ちいきいこう</sup>地域移行<sup>おやもと</sup>、<sup>じりつとう</sup>親元からの自立<sup>きょうどうせいかつ</sup>等<sup>きょうどうせいかつ</sup>にあたり、<sup>きょうどうせいかつ</sup>共同生活  
<sup>えんじょとう</sup>援助等の<sup>しょうがいふくし</sup>障害福祉サービス<sup>さーびす</sup>の<sup>りよう</sup>利用<sup>ひとりぐらし</sup>、一人暮らし<sup>しとう</sup>等の<sup>たいけん</sup>体験<sup>きかい</sup>の機会<sup>きかい</sup>及び<sup>および</sup>場<sup>ば</sup>  
提供<sup>ていきよう</sup>する機能<sup>きのう</sup>。

(4) <sup>せんもんてきじんざい</sup>専門的人材の確保<sup>かくほ</sup>・<sup>ようせい</sup>養成

<sup>いりようてきけ</sup>医療的ケア<sup>あ</sup>が必要な者<sup>ひつよう</sup>、<sup>もの</sup>行動障<sup>こうどうしょう</sup>がい<sup>ゆうするもの</sup>を有する者<sup>こうれいか</sup>、<sup>ともない</sup>高齢化<sup>しょう</sup>に伴い、<sup>しょう</sup>障<sup>しょう</sup>がい  
<sup>じゅうどか</sup>が重度化<sup>ものとう</sup>した者等<sup>たいして</sup>に対して、<sup>せんもんてき</sup>専門的<sup>たいおう</sup>な対応<sup>たいせい</sup>を行うことのできる体制<sup>たいせい</sup>の  
確保<sup>かくほ</sup>及び<sup>せんもんてき</sup>専門的<sup>たいおう</sup>な対応<sup>たいせい</sup>をすることができる人材<sup>じんざい</sup>の養成<sup>ようせい</sup>を行う機能<sup>おこなきのう</sup>。

(5) <sup>ちいき</sup>地域の体制<sup>たいせい</sup>づくり

<sup>ちいき</sup>地域の<sup>さまざま</sup>様々なニーズ<sup>たいおう</sup>に対応<sup>ていきようたいせい</sup>できるサービス<sup>かくほ</sup>提供<sup>ちいき</sup>体制<sup>ちいき</sup>の確保<sup>ちいき</sup>や、<sup>ちいき</sup>地域の  
<sup>しゃかいしげん</sup>社会資源<sup>れんけいたいせい</sup>の連携<sup>こうちくとう</sup>体制<sup>おこな</sup>の構築<sup>きのう</sup>等<sup>う</sup>を行う機能<sup>う</sup>。

## (<sup>た うんえい</sup> <sup>かん</sup> <sup>じゅうようじこう</sup> その他運営に関する重 要 事項)

### <sup>だい</sup> <sup>じょう</sup> 第 2 1 条

<sup>きてい</sup> <sup>さだ</sup> <sup>じこう</sup> <sup>ほか</sup> <sup>うんえい</sup> <sup>かん</sup> <sup>じゅうようじこう</sup> <sup>いりょうほうじんどうじんかいにぐち</sup>  
この規定に定める事項の外、運営に関する重 要 事項は、医療法人同仁会谷口  
<sup>びょういん</sup> <sup>じぎょうしょ</sup> <sup>かんりしや</sup> <sup>きょうぎ</sup> <sup>もと</sup> <sup>さだ</sup>  
病院と事業所の管理者との協議に基づいて定めるものとする。

### <sup>ふ</sup> <sup>そく</sup> 附 則

<sup>きてい</sup> <sup>へいせい</sup> <sup>ねん</sup> <sup>がつ</sup> <sup>にち</sup> <sup>せこう</sup>  
この規定は、平成 2 4 年 1 0 月 1 日から施行する。

<sup>きてい</sup> <sup>へいせい</sup> <sup>ねん</sup> <sup>がつ</sup> <sup>にち</sup> <sup>せこう</sup>  
この規定は、平成 2 5 年 4 月 1 日から施行する。

<sup>きてい</sup> <sup>へいせい</sup> <sup>ねん</sup> <sup>がつ</sup> <sup>にち</sup> <sup>せこう</sup>  
この規定は、平成 2 6 年 1 0 月 1 日から施行する。

<sup>きてい</sup> <sup>へいせい</sup> <sup>ねん</sup> <sup>がつ</sup> <sup>にち</sup> <sup>せこう</sup>  
この規定は、平成 2 7 年 1 月 1 日から施行する。

<sup>きてい</sup> <sup>へいせい</sup> <sup>ねん</sup> <sup>がつ</sup> <sup>にち</sup> <sup>せこう</sup>  
この規定は、平成 2 8 年 4 月 1 日から施行する。

<sup>きてい</sup> <sup>へいせい</sup> <sup>ねん</sup> <sup>がつ</sup> <sup>にち</sup> <sup>せこう</sup>  
この規定は、平成 3 0 年 7 月 1 日から施行する。

<sup>きてい</sup> <sup>へいせい</sup> <sup>ねん</sup> <sup>がつ</sup> <sup>にち</sup> <sup>せこう</sup>  
この規定は、平成 3 1 年 4 月 1 日から施行する。

<sup>きてい</sup> <sup>れいわ</sup> <sup>ねん</sup> <sup>がつ</sup> <sup>にち</sup> <sup>せこう</sup>  
この規定は、令和 2 年 4 月 1 日から施行する。

<sup>きてい</sup> <sup>れいわ</sup> <sup>ねん</sup> <sup>がつ</sup> <sup>にち</sup> <sup>せこう</sup>  
この規定は、令和 6 年 4 月 1 日から施行する。

<sup>きてい</sup> <sup>れいわ</sup> <sup>ねん</sup> <sup>がつ</sup> <sup>にち</sup> <sup>せこう</sup>  
この規定は、令和 7 年 4 月 1 日から施行する。